

## 教材・教具の紹介

## 身体を活発に動かして遊ぶ 「まとあてコロコロボックス」「まとあてガンガンボックス」

岩 崎 ちひろ\*

### 1 はじめに

特別支援学校に在籍する子どもたちには、教師や友だちとかわりながら、積極的に体を動かして遊ぶことが十分にできていない子が多い。特に、知的障害のある子どもは、こだわりや一人遊びが多いこと、また、楽しく遊ぶ経験が少ないこと、見通しが持ちにくいことなどがある。そのため、遊び方や遊具を工夫することが必要である。

特別支援学校の幼稚部・小学部では遊び学習が設定され、そのなかでボールを使った遊びが展開されている。しかし、ボール遊びは目的を明確にしておかないと、ただ転がしたり触ったり蹴ったりするだけで活動が終始してしまう可能性がある。

そこで、ボールを使って子どもたちが身体を活発に動かして遊ぶ「まとあてコロコロボックス」を考案した。知的障害のある子どもが見通しを持ちながら、まとに向かって積極的にボールを蹴ったり転がしたりできるように、あたとまとの絵が切り替わるように工夫した。また、ボールを蹴る力の大小に対応できるように、弱い力で倒れる「コロコロボックス」、強い力を要する「ガンガンボックス」の2種類を用意した。この教材は、体育の授業でも発展的に活用できるものである。

### 2 「まとあてコロコロボックス」の概要

#### 1) 材料

ダンボール (A 4 大12枚)、まとにはる絵 (画用紙A 4 大4枚)、1.5リットルのペットボトル2個、鈴4個、ガムテープ

#### 2) 全体の形状

##### (1) 弱い力で倒れる「コロコロボックス」

コの字型にダンボールを組み立て、ボールが転がり、あたったら倒れるようにする。ダンボールに画用紙をはり、ボールが当たる面、倒れたら見える面にそれぞれバイキンマン、アンパンマンなどの絵をはる。鈴も取り付ける。

##### (2) 強い力で倒れる「ガンガンボックス」

1.5リットルのペットボトルの大きさに合わせて、ペットボトルの側面と底面にダンボールを装着する。ボールが当たる面、倒れたら見える面に画用紙をはり、それぞれバイキンマン、アンパンマンなどの絵をはる。ペットボトルの中に鈴を入れる。

#### 3) 制作のポイント

- ① (1) (2) の両方において、ボールがあたったら後ろに倒れるようにダンボールのあたる面の高さや周りの長さを調節する。
- ② ボールのあたる衝撃による破損等を防ぐため、側面のダン

ボールをガムテープで補強する。

- ③ ダンボールの側面に鈴を取り付けたり、ペットボトルの中に鈴を入れたりして、倒れたら音が鳴るようにする。

### 3 「まとあてコロコロボックス」「まとあてガンガンボックス」のねらい

ボールがあたると、それまでバイキンマンの絵が見えてたボックスが、アンパンマンの絵に切り替わる。また、鈴が鳴るので、ボールがあたったことがはっきりわかる。そのことから、ただボールを蹴ったり転がす活動から、ねらうまとができたことで、結果がわかりやすくなる。さらに、子どもがボールを蹴る、あるいは転がす意欲が高まり、ボールを使った活動が活発化する。

### 4 「まとあてコロコロボックス」「まとあてガンガンボックス」の工夫点

- ① ボールを転がす、蹴る行動によって、絵が切り替わり音が鳴ることで、子どもの行動に意味をもたせながら活動を展開できるように工夫した。
- ② ボールがあたるまとにはバイキンマン、倒れて見える面にはアンパンマンの絵をはることによって、子どもがボールをまとにあてることをわかりやすく提示することができるように工夫した。
- ③ 子どもたちの個々の実態に応じ、力の強弱で倒れるボックスを工夫し、2種類準備した。

### 5 想定される指導場面

#### 1) 対象

対象は、特別支援学校の幼児児童、または特別支援学級 (知的障害) 小学部低学年までの児童である。

#### 2) 指導場面と方法

遊び学習の時間などにおいて、教師が子どもと一緒に遊びながら使用方法を提示する。

子どもの実態に応じて、ボールを蹴る、あるいは転がす位置を決める。その位置までドリブルしてシュートをする距離を変えるなどして行う。倒れたボックスをもとに戻す役割などを子どもたちで分担をして遊ぶようにしてもよい。

### 6 期待される教育効果

- ① この教材を使うことにより、子どもが積極的に体を動かし運動機能を高めることができる。
- ② 教師の遊び方を模倣したり、役割分担をしながら友だちと遊ぶことにより、順番を守る、友だちの活動の様子を観察す

\* 上越教育大学大学院学校教育研究科特別支援教育コース

る、応援するなど人間関係の基礎を学ぶことができる。

- ③ボールが当たったかどうかの結果がわかりやすいので、子どもが意欲的になり、主体的に遊ぶことができる。

## 7 おわりに

知的障害のある子どもが自ら積極的に運動することはむずかしいことが多い。しかし、それは運動しようとしていないのではなく、やることの意味や見通しをもつことができていないか

らではないかと考え、この教材を作成した。

また、ペットボトルの中の鈴を入れることにより、視覚障害のある子どもでも音を手がかりにこの教材に取り組むことができると考える。

それぞれの子どもにおいて、この教材を使用することで意欲をもって活動に取り組むことを望む。

本教材作成にあたり、特別支援教育コース院生の小林俊一さんから助言や協力をいただいた。お礼申しあげる。



写真1 まとあて「コロコロボックス」



(まとにボールが当たって倒れた後)



写真2 まとあて「ガンガンボックス」



(まとにボールが当たって倒れた後)